

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報告書



日時 平成 30 年 10 月 26 日（金） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

場所 東山支所

参加者数 32 人

市側出席者

市長	北 猛俊
副市長	石井 隆
教育長	近内 栄一
総務部長	稲葉 武則
市民生活部長	山下 俊明
保健福祉部長	若杉 勝博
経済部長	後藤 正紀
建設水道部長	吉田 育夫
教育部長	亀淵 雅彦
ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
企画振興課長	西野 成紀
財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

今年の夏も 30 度を超える真夏日がありましたが、最近はそのような暑い日が懐かしく思えるような寒い季節に差しかかっています。今年は天候不順などで農業が苦戦を強いられた年でしたが、農作物の収穫期が終わり、来年の準備で忙しいところ、お集まりいただき厚くお礼を申し上げます。

本日の地域懇談会では、JR問題と市庁舎建て替えに関する説明が大きな議題となります。みなさまには、ご相談、ご説明しなければならないこともある中で、こちらの会場での開催が 10 月末となり、遅くなったことを大変申し訳なく思っています。

この 2 点について、みなさまのご意見を聞かせていただき、今後の参考にさせていただきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。また、様々な地域の課題もあるかと思っておりますので、そうしたこともお聞かせいただければと思います。

1. 鉄道のあり方

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<ul style="list-style-type: none">○ 鉄道問題について、新聞やテレビで JR 北海道の考え方が出ていて、その中では、JR 北海道は運賃の値上げを考えていると出ていた。JR 北海道も民間企業である以上、我々が乗って守ろうではなく、JR 北海道としてどうすれば乗ってもらえるのかを考えていかなければならないと思う。そうでなければ 400 億円の赤字を改善していけない。維持困難線区が廃線になってしまえば留萌や稚内に行きたくても鉄道がないという状況になる。JR 北海道は新幹線だけを考えるのではなく、北海道独自の魅力的な観光列車などを考えて、国内、国外の観光客を呼び込まなければならない。安易に自治体が支援をしてしまえば、際限がなくなるのではないか。○ JR 貨物の荷物も富良野から札幌に行くときは農作物を運んでいるが、帰りの列車は空だと聞いている。札幌からの荷物を生み出し、増やすためにも企業誘致などの方策を考えていくべきだ。○ 鉄道がなくなり、自治体間が分断されてしまったら道内全体の産業にも影響が出るのではないか。全国、全道で道内産業のことをもっと考えてもらう必要がある。○ JR 北海道は民間企業だが、鉄道自体は国にとっても重要なインフラであり、インフラの多様性を担保するためにも国のテコ入れは相	<ul style="list-style-type: none">○ JR 北海道は民間企業である以上、JR 北海道としての改善策をもっと考えるべきだという意見は、他の会場でもいただいています。また、一度負担をすると際限がなくなるのではという意見や、JR 貨物で運んでいる荷物が札幌からの便には何も積まれないまま帰ってくるという指摘もありました。今後、そのような問題について、どうあるべきかを考えていきたいと思っております。○ 市長就任後から根室本線対策協議会の会長を務めています。沿線自治体と協議をしながら動いている状況です。また、市長就任前では、

当量必要であると思う。富良野市の農業を考えても鉄道貨物輸送は大切であり、鉄路は重要なインフラであるといえるので、国に支援を訴えていくべき。

○前市長は根室本線対策協議会の会長として沿線自治体を引っ張っていたが、北市長もそこは変わらないのか。

○個人的には、多少利用者が努力してでも鉄路を存続させ、交通の多様性を確保すべきだと考えている。ぜひ頑張ってもらいたい。

昨年度、国土交通大臣などに直接要望書を渡し、JR北海道に対する支援を強く求めたところ。こうした要望をしてきた結果として、国の方針が示され、JR北海道もその方針に基づいて再建計画を策定中です。市としても、その計画と一緒に考えていく必要があります。沿線自治体にはそれぞれの思惑がありますが、根室本線対策協議会としては滝川一新得間の維持存続に向けた活動を継続し、再建計画の中に維持存続を盛り込めるようにしていきたいと考えています。11月には根室本線対策協議会の会議がありますので、その中で具体的な話が出てくると思っています。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○新聞記事の中で、富良野市庁舎の建て替えに関する検討委員会の会議中、委員4人が退席したとあった。意見に大きな隔たりがあって、議論が紛糾して退席したのか。背景を教えてください。</p> <p>○必要なものは必要なので、退席者が出て会議が紛糾しては大変と思い質問したが、そうではなくて安心した。</p> <p>○現庁舎の敷地内に新庁舎を建設しようとしているが、業務に支障はないのか。また、建設候補地は、ほかにはなかったのか。</p> <p>○基本設計までのスケジュールがタイトだが、建築設計事務所の設計が完成するまでか、それとも市としてのイメージが完成するまでか。</p>	<p>○検討委員会の会議時間が長くなり、他に用事があった方が退席したという状況です。会議が紛糾したということではありません。事務局の説明事項が多く、長かったという反省がありますので、今後改善していきたいと思えます。</p> <p>○現庁舎の敷地は駐車スペースも十分に確保できる広大な敷地であることから、新たに土地を購入するのではなく、現在の敷地を活用することにしました。また、新庁舎を建設している間は、現庁舎の業務を遂行する予定です。業務に支障が出ないよう努めたいと思えます。</p> <p>○基本設計は、市として間取りをどうするのかなどの大まかな考えを決めるものです。それをもとに、部材をどうするかなどの具体的な設計を決めていくのが実施設計となります。なお、基本計画と基本設計の作成については、北海道日建設計が引き受けてくれています。計画や設計の内容は、検討委員会での意見などを踏まえて作成するよう依頼しています。</p>

○設計会社が基本設計を作る段階で、既に決まっていることに違和感がある。費用を抑えるためには設計会社をきちんと選定すべきであり、仮に基本計画の作成について委託をするとしてもコンペティションなどできちんと選定をすべきではないのか。

○近年、災害が多い中、災害にきちんと対応できる充実した公共施設を建ててほしい。現段階で検討されている災害対策面での機能があれば教えてほしい。特に、災害時に情報発信ができるように電源設備はしっかりとしてほしい。

○懇談会の冒頭で説明したとおり、非常にタイトなスケジュールで、今年度中に基本計画と基本設計を同時に策定しなければ間に合いません。このため、基本計画の段階から設計会社が入る形をとっています。その設計会社は、プロポーザル形式により企画提案をしてもらい、選定しています。これは設計案を募集したのではなく、設計者の考え方や実施方針などを提案してもらい、一緒に検討してもらえ業者の人の部分を選定しました。今後の実施設計などの段階では、また別の事業手法等での選定を検討していきたいと思います。

○職員ワーキンググループでも災害対策について検討しています。特に自家発電機能については、直近の地震の際にも市役所の電源が大会議室と総務課の部屋しか復旧できませんでした。このため、市のホームページが見られないなどの影響が出ました。発電機の燃料も72時間分は確保をしていかなければならないと考えています。現在の庁舎は、電気室が地下に設置されているため、洪水が発生した際には水没してしまいます。このため、市のサーバー機を含めて高層階に設置できるように考えていきたいと思います。新庁舎建設では、災害時の拠点となる施設になるよう検討を進めています。

3. 防災対応について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○災害対策関係で今すでに出てきている情報があれば教えてほしい。</p> <p>○ラジオふらのの受信エリアの拡大はどうやって進めていくのか</p>	<p>○情報発信では、フェイスブックや安全安心メールで災害情報を周知していますが、このほかにもラジオふらので情報発信をしています。現在、ラジオふらのの受信エリア拡大を進めていて、より多くの人に情報を発信できるように努めていきたいと思います。</p> <p>○現在、ラジオの電波は清水山から出していますが、それをより高所にある北の峰に移動する予定です。また、東山地区の受信エリアを拡大するため、東大演習林内に設置しているテレビ中継局舎の近くにラジオの中継点を設置する予定で、来年度の工事を予定していま</p>

<p>○自家水道組合の水道管が災害等で被害がでたときは、市で直してもらえるのか。</p> <p>○水は生きていくうえで必須なので、早急に復旧できるように対応をお願いしたい。</p>	<p>す。この工事により市民の98%がラジオを聴ける環境になる見込みです。</p> <p>○他市町村でも災害時にラジオ放送が有効だったという話を聞いています。受信エリアの拡大と同時に、災害時の放送内容や手法を改善し、必要な情報を繰り返し放送するなど、切れ目のない情報発信をしていきたいと思いません。</p> <p>○2戸以上で共有している水道管については、2分の1補助で直すことが可能です。ただし、補助金の予算を議会で承認してもらう必要があります。災害時には早急に対応する必要がありますので、上下水道課にご相談ください。また、水道管に限らず、老朽化した施設等の修繕についても上下水道課に相談してください。</p> <p>○緊急時にどのように対応するかどうかは別途検討させていただきます。</p> <p>○胆振東部地震では、麓郷地域が停電で水がなくなり、応急給水を実施しました。飲み水は、少なくとも数日間は応急給水等で早急に対応できると思います。災害復旧についても可能な限り早く対応できるようにしていきたいと思いません。</p>
--	---

4. 地域課題について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>野菜直売所しずくとパークゴルフ場を今年から地域で管理することになった。しずくでは当初、冷害の影響で野菜が少なくて苦労したのがなんとかやってこれた。一方、パークゴルフ場は、年々利用者が減ってきている現状にある。しかし、せつかく管理を任されているのでいろいろやっていこうと考えている。今年には外国人が12人来た。どうやって来たのか聞いてみたら、通り道できれいなパークゴルフ場があったから立ち寄ったとか、SNSで情報を見てきたという人がいた。こうした人たちを取り込むためにも、しずくとパークゴルフ場の案内パンフレットを作成したいと考えている。市の観光パンフレットにも東山地</p>	<p>○市の観光パンフレットへの掲載は、富良野 - 美瑛間の自治体で協力して作っているものです。富良野市だけでは決められないため、今後検討させていただきます。また、現在、SNS等による観光情報の発信強化についても検討しているところです。東山の情報発信も含めて考えていきたいと思いません。</p> <p>○作成したパンフレットをホテルに設置できるかどうかは、断るホテルはないと思いませんので、作成後に改めて市に相談いただければ、こちらからホテルに伝えたいと思いません。</p>

区は何も載っていないので、しずくやゴルフ場を載せてほしい。作成したパンフレットをホテルにおけるかどうか商工観光課に検討してもらいたい。

- 西達布町内会について、加入世帯が11戸しかなく、西達布町内だけでも空き家が27戸ある。以前、テレビで富良野市が住みたいところランキングで7位になっていた。富良野市に住みたいという人たちが一定程度いる中で、市の事業で移住者向けに空き家を改修できないか。
- 使える空き家であれば、町内会で活用方法を検討できるが、廃屋に近い空き家も多く、そうした空き家については何とか早急に対応をお願いしたい。
- 東山全体として、道路状態がよくない。基幹の市道においても土の側溝のままとなっている。雨の日に側溝が流れない状況もある。そういった部分を整備してもらい、何とか改善してほしい。新市長にもそういう状況を理解してほしい。交通量の多い市道の道道への格上げについても要請してほしい。
- 近年、予想外の災害というのが多い。災害のたびに何かあったところを修繕している状況だが、市としても計画をもって事前に整備を進めてほしい。道路に関する要望も、ただ要望書を出すのではなく、地域からこれだけの要望が来ているのだと強く訴えて、要望を実現するために真剣に取り組んでほしい。
- 連協や振興会からの要望で現状を理解しているというが、どの程度進んでいるのか疑問。そういった要望をかなえていただけよう重く受け止めてほしい。
- 東山地区コミュニティーカーは、利用者数がある程度落ち着いてきて運行予算にも余裕がでていたが、最近、利用者が増えてきて予算に余裕がなくなってきた。利用者が増えた要因は、地区の高齢者がふれあいサロンに行くために利用するなどが考えられ、運行経費に関する市の予算の増額等について、要望を上げていきたいと思うのでお願いしたい

○空き家は、基本的に持ち主の管理が原則です。また、市のリフォーム補助は、持ち主が住むという条件で補助をしているものです。現在、空き家の調査を実施していて、意向調査も行います。まずは持ち主の意向を調査し、調査の結果を踏まえて、今後の空き家対策を検討していきたいと思います。

○空き家の解体は、廃屋に近い状態だとしても、持ち主の財産である以上、市で勝手に解体することはできません。まずは持ち主が対応するのが原則となっています。特定空き家として行政代執行するという手段もありますが、あくまでも最終手段です。現段階では、市内の空き家の調査と持ち主の意向調査を最優先に行っているため、ご理解をお願いします。

○道道への昇格については、引き続き要望をしていきます。市長を筆頭に粘り強く進めていきたいと思います。

○道路に関する地域からの要望は、毎年、話をさせていただいていますが、ご理解をいただきたいと思います。

○ふるさと納税について、富良野市の金額はいくらか。過去に入ってきた金はどのように使っているのか。また、ふるさと納税は、コミュニティーカーの運営費に充てることはできないか。

○今年、山部消防署で心肺蘇生の講習を受けたが、市内のAED設置状況や周知状況はどうなっているのか。

○東山地域などの過疎地域はAEDの設置台数が少ない。市街地には病院などの医療機関も整っているので、むしろ過疎地域にこそAEDが必要だと思う。人口当たりの設置数ではなく、何キロ圏内いくつ設置するのかという考え方で設置計画を考えてほしい。

○農業担い手事業について、今後とも、東山地域として協力していくので引き続きお願いしたい。

○ふるさと納税は、平成29年度で約8,000万円入ってきています。全額を基金に入れて、医療の充実や農業振興に使っている状況です。これまでに約1,300万円を使い、残りは基金に貯めています。コミュニティーカーの運営費は、ふるさと納税ではなく市全体の状況を加味して考えていきたいと思います。

○AEDが普及し始めの頃は、麓郷地域から設置の要望があり、AED設置の振り分けの際に、そうした要望を加味して検討した経緯があります。また、設置個所の周知も必要だと思いますので、今後検討していきたいと思います。

【市長 閉会のあいさつ】

長時間にわたり、市の説明を聞いていただきありがとうございます。様々な課題に関するご意見については、解決に向けて努力、検討していきたいと思います。また、お願いとして、河川や道路についての様々な要請を進めていきたいと思いますが、こうした要請は地域の協力があってこそ早期の実現ができるものです。地域のみなさんのご協力をお願いします。

地域課題の解決に向けて、地域のみなさんと協力して努力していきたいと思います。地域の発展に向けたご提案も多くいただきました。行政も一緒になって地域をつくっていけるよう、満足度の高い市政の実現に向け、今後ともご意見をいただきますよう、よろしく願いいたします。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
60-69 歳	男性	・市庁舎は早く建ててほしい